

【樹木の部屋】

アーモンド（バラ科モモ属 *Prunus dulcis*）

和名：ヘントウ（扁桃）、ハタンキョウ（巴旦杏） **別名**：

英名：Almond

バラ目 落葉高木

原産地：アジア西南部

花言葉：希望、真心の愛、無分別、愚かさ、永久の優しさ、軽率

花の色：白、桃

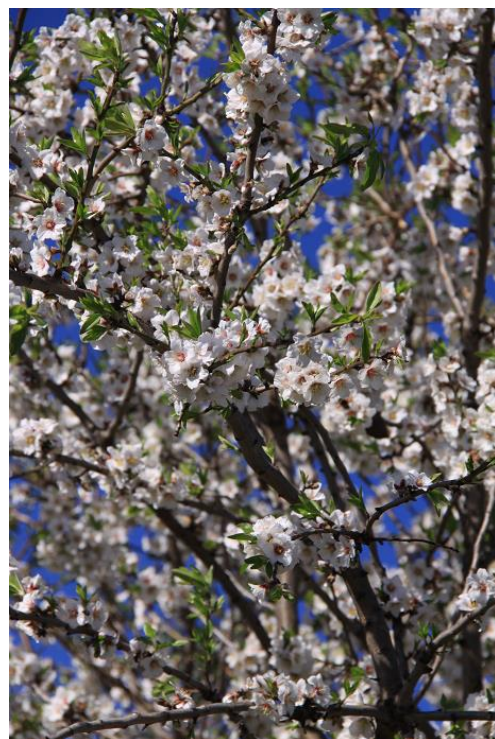
←\ 写真-1、2 アーモンドの樹形

撮影日：2019年02月24日

撮影場所：モンサラーシュ

（ポルトガル）にて

撮影者：M さん



←↑ 写真-3、4 アーモンド若木と花

撮影日：2018年04月22日

撮影場所：カテリニ（ギリシャ）にて

撮影者：M さん



← 写真-5 アーモンドの花

撮影日：2019年04月12日

撮影場所：布引ハーブ園

(神戸市)にて

撮影者：M さん

写真-1、2はモンサラーシュ(ポルトガル)の駐車場近くで、写真-3、4はカテリニ(ギリシャ)のサービスエリア駐車場で、写真-5は布引ハーブ園(神戸市)でそれぞれ散策中に、見かけました。カテリニ(ギリシャ)では花期の終りのようでしたがその他は最盛期のようです。

アンズやウメ、モモの近縁種です。日本では3～4月にかけて、葉のない枝にアンズやモモとよく似た白色、桜色、桃色の花卉の端に小さな切り込みの入った花をサクラ同様一斉に咲かせます。ただし花柄が非常に長いサクラの花と違いアーモンドの花柄は非常に短く、枝に沿うように花を付けるため、桜色、桃色の花の品種の場合は一見モモの花のように見えます。

若枝は淡褐色ですが、幹は黒褐色で横長の皮目があり、ざらざらします。葉は広披針形～長楕円形で先は尖り、細かい鋸歯があって、互生します。

果実は楕円形の核果で、柄がごく短く、表面に細毛があり、果肉は薄くて食用にはなりません。種子殻の内側の「仁」と呼ばれる部分を炒ったり揚げたりして食用にします。夏に紫色に熟して果肉が割れてくるころが食べごろだそうです。ビタミンEとポリフェノールを多く含みます。

熟した果実が自然に落下することはないので、収穫の際には樹を揺さぶって実を落とすそうです。実は梅雨や台風が多い日本の気候ではあまりたくさんは収穫できず、ほとんどの実が落ちたり腐ったりしてしまうそうです。

スイート種(甘扁桃)とビター種(苦扁桃)があり、食用にされるのはスイート種です。ビターアーモンドには青酸化合物であるアミグダリンが多く含まれるため、味が苦く、大量に摂取すると有毒だそうです。要注意です。

生薬では種子を苦扁桃(くへんとう)といい、鎮咳、去痰の薬効があるそうです。